

令和7年度長野県長野吉田高等学校学校評価表

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	生徒指導	生徒の自立心と社会規範意識を高めさせる生活指導を行う。	身なりや挨拶、登下校時のマナーを含め公共の場における適切な態度を身につけさせることができたか。	生活けじめ週間を4回実施。自転車通行マナー・ヘルメットの着用について、ホームルームにて注意喚起を実施。自動車学校による1学年向け交通安全講話を実施。自主的に立ち番をしてくださった先生方のおかげもあり、遅刻者数は減ってきている。		○		引き続き注意・指導していきたい。また、声を出して挨拶ができるように指導する必要がある。
			集団生活の中で、他者を思いやり、自ら考えて行動する態度を育てることができたか。	学校生活アンケートを2回実施。きまりを守る意識やマナー・モラルについて職員全体での継続的な声かけが必要である。また、アセスも2回行うことで迅速に問題を抱える生徒の掌握が出来た。		○		生徒について職員間での情報共有を継続していく。あらゆる場面で主体性や人間性の部分を指摘していく。
	進路指導	生徒が自主的に目標をもって学び、意欲的に進路実現を目指す学習・進路指導を行う。また、将来の生き方・働き方を考え、選択決定する上で必要な、基本的な能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す。	進路指導係として、本校生徒全体の学力向上を目指し、生徒自身が具体的な学習目標をもつことができるような教科指導・進路指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 進路講演会4月（1・2・3学年） 学年集会、学年進路講演会の実施、学年通信の発行 進路指導室だより（1, 2年向け：月刊、3年向け：適時）の発行 次年度類型科目選択資料「科目選択の指針」の作成 	○			引きつづき、各取り組みの充実を図る。本年度の共通テスト・大学入試の結果の研究と、次年度以降に関する最新の情報の収集に努め、随時提供していく。
			進路指導係として、夏期講習・学習合宿・補習・個別指導・小論文指導等を充実させ、生徒個々の希望や実情に応じた進路指導を行うことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 3学年1学期・2学期：放課後補習の実施 1学年夏期休業：学習合宿、2学年夏期休業：夏期集中講座 3学年夏期休業：夏期集中学習、夏期補習 1, 2学年：小論文講座の実施 3学年：特別編成授業A・B計画と実施、小論文模試、小論文講演会の実施 		○		夏期休業中の補習、また学習合宿に代わる学力補充の実施について、時期や形態を再考する。引き続き、模擬試験公欠者の自宅受験は行わないことを申し送り事項とする。
			進路指導係として、生徒が自発的に家庭学習時間を増やすよう、学校全体で取り組めたか。	<ul style="list-style-type: none"> 1～3学年：タブレット端末の活用の推奨 スタディーサポートや生活記録などを通じた実態の把握 状況を踏まえた個別面談の実施 		○		学習とスマートフォンとの共存、また班活動との両立が大きな課題である。また、日々の教科指導における予復習の徹底が課題である。
			進路指導係として高大接続改革をふまえて、共通テスト・探究学習や新学習指導要領への対応を、関係部署と連携しながら進めることができたか。	<ul style="list-style-type: none"> 学年進路講話の実施 進路指導係会内での新課程入試に向けての情報共有、指導計画検討 		○		2026年度（新課程2年目）の入試の結果を分析し、指導計画に組み入れる。探究活動の充実と、副担任による模試監督など職務分担の平分化を含め、他分掌や教科にも発信していく。
進路指導係として、就労体験等の機会の活用を図りながら、望ましい勤労観、職業観を育成できたか。	<ul style="list-style-type: none"> 吉田小学校（11月）にて教育実習体験実施 1学年9月：キャリアガイダンス実施 1学年10月：大学企業見学 2学年11月：大学模擬授業 1, 2学年：「高校生看護師体験」（希望者） 	○			例年実施される各種キャリア活動が、さらに充実するように工夫する。また、探究学習や大学入試等の志望理由に活用できるように検討する。			

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	生徒会	生徒の主体的行動を促し、一人ひとりが責任感を持って意欲的に自治活動に取り組み、各々が成就感を持てるよう支援する。	日常の委員会活動や諸行事の運営の中で、生徒会役員がそれぞれの場でリーダーシップを発揮し、全校生徒が主体的に参加できるような創意ある活動をおこなうための支援ができたか。	執行部や暁峰祭実行委員の働きかけで、生徒会活動に主体的に参加し行動する生徒が増えている。生徒会行事の企画や運営方法に、生徒側から、前例踏襲でない創意に富んだ提案が出てきている。暁峰祭の達成感が高い。継続している3校(長野・西・吉田)合同企画、本年度はGWに中央通りでフリーマーケットを行い盛況。職員の支援は濃やかに行われている。 年度後半の新執行部体制で、「魅力化プロジェクト」を立ち上げ、「吉田寺子屋+交流イベント」の企画・運営を行うことにより、リーダーシップ・メンバーシップの向上が見られた。	○			今年度：役員を中心とした活動が、日常の生徒会活動や行事イベントを通して、より多くの生徒の活動になるように支援していきたい。「魅力化プロジェクト」を通じて、「地域に開かれた学校づくり」に貢献し、また、生徒の多面的な成長を支援していきたい。
			クラブ活動への加入、活動の活性化を促進し、クラブ活動がより一層充実するよう支援することができたか。	予定通り、新入生歓迎会での部活紹介、体験入部・クラブ結成会を行った。クラブ加入状況は例年通りにより。運動部、文化部ともに活発に活動しており、各種大会でも結果に繋がりと、県大会や上位大会に多数出場できている。「魅力化プロジェクト」の「寺子屋」に英語班・数学愛好会が先生役として参加、「交流イベント」に陸上・美術・写真・書道・合唱・軽音・男子バスケット・女子バレー・文芸・競技カルタ・テニス・卓球・バドミントンの各班が、小学生相手に工夫した内容の時間を作り、活動の認知度を高められた。	○			今年度：活発に活動している班・愛好会の情報を校内に広報したり、地元地域の方々と交流する機会を設けたりすることで、より充実した活動となるよう支援していきたい。
	平和人権教育	平和人権教育を計画的に推進し、職員研修を実施する。	全校生徒を対象に、人権・平和に関する講演・朗読会または映画鑑賞を実施し、事前事後学習と関連させてHR等での学習を深めることができたか。	全校一斉平和・人権学習として、人権の基本である個人の尊厳、差別の問題と今年が戦後80年の節目の年でもあるので、広島原爆と、それが現在に続く問題をテーマにした、こうの史代原作の映画「夕風の街 桜の国」の映画を鑑賞した。原爆投下後13年立った広島で亡くなる女性と、その弟が原爆投下後63年経った広島を訪ねる二人の主人公をつらぬく「原爆」と二人の間に存在する時間を通して、人権・平和について深く考えることが出来た。9月4日(木)に映画を視聴し、LHRの時間をとって感想文を書いた。HDMIエクステンダー受信機を設置し、各教室に同時配信する形式を採用した。	○			本部教室(418)よりDVDを再生し、各教室に配信する形態で映画鑑賞を行ったが、音声・映像とも高品質で視聴できた。毎年午後を実施していた企画であるが、機材の設置等の関係で午前中開催が定着し、生徒も集中して視聴していて、中身の濃い感想が多かった。時間に関してはフレキシブルに対応できてよかった。
			平和人権学習の時間をHR等で計画的に確保できたか。	映画鑑賞時のプリント資料に加えて、平和人権通信として、一号「平和人権問題全般について」二、三、四号で「沖縄と長野を結んで考える」五号「ユニセフについて」六号「アイヌについて」を発行しHRの時間に配布した。	○			年六回ではあったが、HRの時間に、「人権平和新聞」を読むことで、新たな知見を得ることが出来た。
			平和人権教育に関する教職員の研修を実施し、校内での実践等を交流できたか。	全校生徒対象の学習会と職員研修を昨年に続き共催で実施し、職員は各ホームルームまたは会議室で映画『夕風の街 桜の国』を視聴し、年六回の「人権平和新聞」も参考にした。	○			講師を招いて講演会は実現できなかったが、「人権平和新聞」を6号発行できたことは、大きな収穫であった。
	施設整美防災	校内美化に対する意識の向上および清掃活動の徹底と防災意識の涵養に取り組む。	生徒会整美委員会が中心となり、日々の清掃活動の励行、ゴミの取り扱いに対する意識を高める等、生徒と職員が一体となって、日常的に取り組むことができたか。	クラスの委員を中心に、清掃を積極的に取り組むことができた。ゴミステーションの当番を各委員に順番に割り振ることにより、ゴミに対する意識を高めることができた。このことに関しては、後期は特に充実した活動になった。暁峰祭で出たごみの量は例年に比べかなり少なかった。	○			ゴミに対する意識を更に高めるとともに、毎日の清掃活動を通して校舎の美化に努めたい。また、ゴミの分別が徹底できていない(特に教室)箇所があったので、改善したい。
			校内の施設、設備の点検・整備を行い、有効に利用することができたか。	点検・整備に努めたが、場所によっては十分でない箇所もあったので今後の課題としたい。		○		予算執行は滞りなくできたが、不足があった部分については来年度への引き継ぎとしたい。

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	図書視聴覚	生徒の教養に資する資料を提供するとともに、生徒・教職員の学習・教育活動を積極的に支援する図書館運営を行う。	広報活動や読書旬間等の行事、生徒会図書委員会の活動の活性化を通じて、読書活動の充実を図ることができたか。	新入生への図書館オリエンテーション・広報活動・読書旬間・暁峰祭での古本市・生徒による図書店頭購入・図書委員による書架清掃は例年通り実施している。8月の長水地区高校の図書委員交流会では、県立長野図書館でバックヤードツアーや各校の活動発表に学びながら他校の図書委員と交流した。昨年度復活した、コロナ禍で中断していた図書委員によるカウンター当番、オープン閲覧室の読書・学習用開放を今年度も継続実施した。クリスマス読書旬間中に、図書委員を中心とした、①本の紹介をメインとした茶話会、②本の福袋貸出を行った。		○		生徒委員会の活性化は引き続きの課題。カウンター当番はそれぞれしっかりこなしてくれるが、定例の図書委員会を開くなど、参集・対面での活動を増やし、意見や企画を出しやすいう雰囲気づくりが必要である。茶話会は今年度も好評であったことから、参加者の拡大や、定期的な読書会への発展等に繋げたい。図書館報については、内容の充実を図りたい。
			日常の学習や進路学習において、教科や係と連携を深め、資料の提供ができたか。	教科の授業・課題や学校行事にコラボして、図書の紹介・陳列展示を行っている。探究・進路関連図書購入のため各所から要望を寄せてもらっている。探究に関わって直接レファレンスに訪れる生徒は少なかったが、3年生の総合型選抜や小論文対策では、個別に相談に応じながら本や資料を提供した。古本市での収入も生徒・職員の希望図書購入にあてようとリクエストを募り、予算の範囲で購入を行った。		○	閲覧室は、昼休み・放課後の学習に利用してもらった（放課後は開館時間延長）。国語や3学年の特編授業の自習時間でも利用があった。恒例の新入生への図書館オリエンテーションを丁寧に行い、1年次からの利用の促進・定着を図りたい。進路・小論文指導のための図書相談については、早めの利用を呼びかけたい。	
		芸術鑑賞の計画・運営等の視聴覚教育を推進し、高視研との連携を図りながら、生徒と教職員の教育活動に役立てる。	係が芸術鑑賞連絡会や高視研との連携を図りながら事業を推進し、生徒の教育活動に反映・活用できたか。	今年度は長野俊英高校との2校合同開催であり、吉田高校の係担当がとりまとめを行った。本校係担当が当日の舞台監督や公演団体、俊英高校の係担当と連絡を取りながら、本番までの準備やスケジュールについて打合せをした。係担当も初めての事で大変であったが、北信事務局（今年度は更科農業高校）にも不明点を共有しながら進めることができた。各方面に迷惑を掛ける事はあったが、問題なく計画を終わらせることが出来た。本校の生徒会長には最後の御礼の挨拶で手伝って貰ったが、立派にこなしてもらった。		○	経験豊富な先生に良くお聞きして計画や業者との交渉を行うとスムーズに準備が行える。昨年の引継ぎ事項の中に「例年、芸術鑑賞日（5月）は雨天の日が多いため、生徒が雨の中開館まで待っていた」という反省があった。今年度も鑑賞日には雨が降っていたため、生徒が早く会場に到着しても雨に濡れないようにホクト文化ホール事務局と相談し、開館時間を早めてロビーに誘導して待機させた。	
	保健	自らの健康について関心を持ち、生涯を通じて自発的に健康な生活を送ることができる能力を身につける。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行えたか。	定期健康診断や健康相談活動等を通じ、自らの健康課題を把握し改善することができるよう保健管理・保健指導を行った。		○		学級担任の協力を仰ぎながら、きめ細かい指導を行えるよう努力する。生活習慣・食事・睡眠など、今から意識して行動できる成人になれるよう組織的な対応を促す。
			学校において予防すべき感染症について、最新の情報収集により感染拡大防止策の徹底がなされたか。	学校において予防すべき感染症について、各部署と連携・協力しながら、感染拡大防止策の徹底に努めた。		○	引き続き家庭や学級での健康観察をお願いし、各自の感染予防の意識を高めていきたい。	
	探究学習	生徒が自ら課題を発見し、解決していく力を養う。	探究学習係として、情報収集に努め、効果的な学習活動を実施できたか。	情報の収集・精選を行い、関係各所との情報の共有につとめた。一部生徒は留学プログラムに積極的に応募し、代表として選出された。		○		引き続き研究応募や参加型の企画を精選・周知することに力を入れ、生徒の探究学習活動が多様化することにつとめたい。
			探究的学習を通じ、生徒に学校外の社会についての理解を深めさせ、社会参画するの姿勢について考えさせる事ができたか。	各学年ごとに、生徒自身の進路と社会とのつながりを意識させながら学習を進めることが出来た。1学年では、外部講師によるインタビュー講座を実施し探究的なスキルを獲得した。2学年では生徒各自がそれぞれに研究テーマを設定し、発表までつなげた。一部生徒はインタビューなどのフィールドワークを行い意欲的な取り組みを見せた。		○	問い立て、客観的なデータの活用、フィールドワークの実践等探究学習に必要な活動について、インタビュースキルを高めることでより効果的に地域人材を活用しながら学習を進めていきたい。	
	学習指導	生徒の学習状況や指導上の問題点を把握し、各学年や関係部署と協議しながら学力向上のための研究・実践を行う。	授業アンケート等を通して、生徒の意見・要望を聞き取り、教科指導の向上・充実につなげることができたか。	アンケート実施方法をGoogle Formsに統一し、アンケート結果を教科担当者ごと電子ファイルにまとめて通知する方法を継続した。		○		アンケート入力する時間をまとめて確保するなど、アンケート回収率向上に向けた工夫が必要となる。
			学習室の環境整備に努め、土曜日における生徒の学習室利用を促すことができたか。	学びの基礎診断(スタディサポート)や模擬試験等を通じて各生徒の実態把握に努めてきた。授業アンケートの結果によると多くの生徒が授業中に集中して取り組んでいる。授業の進度も適切であると判断している生徒が多い。授業はわかりやすく充実していると評価している生徒も多い。しかし、予習・復習については、授業の復習が不十分であることが推察される。また休日の学習室利用者は減る傾向にあるので学習室の開放については検討したい。		○	休日学習室開放について、時期や実施回数を検討する。	

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策
					A	B	C	
教育活動	教育課程	<p>施行している新教育課程について本校の編成内容が適切であるか検証し、より学習効果が高まる教育課程を研究する。</p>	<p>新教育課程下での学習効果と課題の検討を行い、必要に応じて見直しを行うことができたか。</p>	<p>大学入試の動向、新教育課程をより効果的に展開できるよう、2・3年生の文理科目の編成および教科単位数を含めた選択モデルについて検討を始めた。</p>		○		<p>全学年が新教育課程となった。入試動向を踏まえ、運用方法について検討していく必要がある。未開講科目については選択の多様性を残す観点から削除せず、次年度、選択モデルを再検討すること合わせ検討する。大学入試における「情報I」の取り扱いに注視しながら、教科</p>
			<p>主体的・対話的で深い学びを踏まえて、学校全体及び各教科で授業内容の研究・検討とそれに伴う観点別の学習評価の検証ができたか。</p>	<p>主体的・対話的で深い学びについて、各教科において授業公開や研究授業の場で研修をしている。観点別評価について各教科で理解を深めると共に評価表の作成や見直しを行った。</p>		○		<p>各教科で評価方法について都度再確認、再検討できる態勢を整える。</p>
	1学年	<p>学年三原則「挨拶をする、時間を守る、整理整頓をする」を土台として、学習、班、生徒会それぞれの活動に誠実に取り組み、自ら考え、主体的に行動する力をつけ、確かな学力の向上と目標とする進路実現の展望を開く。</p>	<p>人との関わりや学習環境を整えながら健全な日常正活を送り、良好な人間生活の形成を図れる人格を育成することを目指し、毎日のあいさつや身だしなみ、公共のマナーや身の回りの整理整頓、掃除に丁寧にに取り組むことができたか。</p>	<p>学年三原則は学年通信に毎回掲載している。担任団でも意識の共有ができており、生徒たちにも認識されている。そのせいか大きな乱れは学年として感じられない。スマホの扱いも気になる点もない。問題行動が起きても事象が大きくなりうちに迅速に学年として対応できた。ただもっと爽やかに挨拶できる明るい校風にしていきたい。</p>		○		<p>2年次以降も学年三原則は意識させていきたい。凡事徹底ができる集団になって成長していってもらいたい。</p>
			<p>日常の学習、補習、提出課題、夏季合宿、大学見学、模擬試験などを充実させ、1年次より自分の将来像について考えさせ、生徒個々の希望や実情に応じた進路指導を行うことができたか。</p>	<p>進路係を中心として積極的な進路指導ができた。各種外部試験においてもきちんとリフレクションをして、自分を見つめなおす機会を設けた。また文理選択においてもそれぞれの利点や特徴および覚悟を生徒に認識させ、進路を深く考えさせるようにした。英検など外部試験にも積極的に取り組む生徒が多かった。</p>		○		<p>文理選択で自分の将来への方向性が決まってきた生徒もいるが、具体的な面で将来像が明確でない生徒もいる。個人面接をさらに充実させ、目的意識を明確に持ち、目標達成に向けて生徒に寄り添っていきたい。</p>
			<p>教科の学習、「総合的な探究の時間」およびHR活動等において、タブレット端末を有効に利用し、生徒が主体的に目標を持って学ぶことができ、情報リテラシーを高めることができたか。</p>	<p>探究学習を中心に各教科活動の中で意見集約、調べ学習、発表資料の作成、プレゼンテーション、課題の配信、などでタブレットを活用し学びを深めることができた。検索、資料の活用における情報の扱いについて今後も意識をさせていきたい。</p>		○		<p>探究の時間での活用はこれまで通りとしたいが、タブレットを使うことでの有効となる部分の確認を進めたい。</p>
	2学年	<p>基本的な生活習慣を土台に、学習、班、生徒会それぞれの活動に意欲的に取り組み、自ら考え、行動する力をつけるとともに、自己肯定感を持ち、お互いを尊重し認め合う中で確かな学力の向上と「社会に貢献できる人」になるため、果たすべき自分の役割や自分らしい生き方を考え、将来の進路希望を具体化する。</p>	<p>人との関わりを円滑にするあいさつや身だしなみ、また、気持ちのよい学習環境を整えるための掃除や身の回りの整理整頓に、毎日丁寧にに取り組むことができたか。</p>	<p>あいさつや身だしなみ、清掃活動などについてはよくやっており、快適な学習空間が作られている。1年次後半から学校を休みがちな生徒が増え始めたが、2年次前半において、そうした傾向を持って進級した生徒の中で、学校を続けることができなかった者が複数名いた。</p>		○		<p>学校生活をさらに充実させるために、日々やるべきことをきちんとやり続ける生活力を土台としたい。クラスマッチや文化祭などの行事を通し、お互いの良さを認め合い、高めあえるよい環境づくりをさらに考えたい。</p>
			<p>定期的な学習計画表で、目標設定や計画、実践、振り返りのサイクルを通して進路実現に向けて学力を高めることができたか。</p>	<p>全国模試の結果からみると、一定の学力がついており、その学力を維持して今日に至っている。新年になって、模試3回、共通テスト体験、小論文模試とまさに3学年0学期という流れの中で、自身の志望に向けた意識づけができてきている。計画や振り返りで手帳を有効に使っている生徒もいる。進学へのモチベーションが高まった。</p>		○		<p>計画と実践、振り返りを丁寧に求められる学年になる。模試や定期考査、長期休業などを目印に長期、短期の目標設定を促し、また適切な資料提供や助言を与える中で個々の学力を高める指導を工夫したい。</p>
			<p>教科の学習、「総合的な探究の時間」およびHR活動等において、タブレット端末を有効に活用する中で、インターネットリテラシーを高めることができたか。</p>	<p>生徒ひとり一人が自ら設定した問いに対して、調べ学習を行い、スライドを作成してプレゼンテーションを行った。1回目は1、2年合同のグループに分かれ、1年生への5分程度の発表とそれに対するディスカッションを行い、2回目は代表者8名によるオンラインでのプレゼンテーションを行い、大学の先生からの助言をいただいた。今後の学習のヒントを得ることができた。</p>		○		<p>探究活動、発表等での活用は減少するが、これまでの『探究』で行った個人研究の実践を学習活動や進路に向けての取り組みの中に発展的に活かしていきたい。モラル、リテラシーについても適時適所で確認したい。</p>

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果と課題（年度末評価）	評価			改善策・向上策	
					A	B	C		
教育活動	3 学年	社会を構成する一人として、常に周囲への関心や気遣いを持ち、また、将来の目標に向け、ひたむきでたゆまぬ努力を惜しまない人間になることを目指す。□	個々の生徒が、自らの生活習慣を自ら見つめ、律し行動することで、周囲へ良い影響を与えられるようになるように声かけを行えたか。また、生徒同士の相互作用により、気持ちよい学校生活の雰囲気作りができたか。	挨拶をする、予鈴までに登校する、提出物を出す、授業を大切に、清掃をする、といった基本的な生活については学習やその他の活動の土台として定期的に通信や集会で伝えてきた。多くの生徒は登校から下校まで授業を中心に規律ある学校生活を送れた。そのような中、なかなか学校に足が向かない、教室に入れないといった生徒もあったが、カウンセラーの助言や保護者の協力をいただきながら、受験までたどり着けた。	○			3 年次は受験指導が始まり、生徒たちの学習や生活習慣への意識が自ずと高まる。そのため、そうした条件を活かしてさらに意識付けを強めれば大きな効果が期待できる。	
			個々の生徒が、学校生活に学習を中心とするさまざまな取り組みの中で、前向きに全力で取り組み、自らの生き方をデザインしていく力が育まれるように、アドバイスや投げかけを行うことができたか。	出願を終え、第1志望の合格に向けて特編授業に参加し、また自習室を利用して学習に専念する姿が見られる。個別面談を繰り返す中で将来像を考えながら志望校を具体化させてきた。受験シーズンが続いていくが、後期試験、3月入試の終わるまで、面接や小論文指導など充実させていきたい。	○			教科学習、班、生徒会、校外活動も含め、学年を追ったキャリア支援を継続性をもって進めたい。イベント間の事前事後を丁寧につなぎ、将来像を考えながら主体的に考え、行動する力をさらにつけられるとよい。	
			生徒たちがクラブ活動や生徒会活動にしっかりと取り組めるように、環境を整備し、アドバイスを与え、支援することができたか。	文化祭では役員を中心に全体の運営をする一方、限られた時間の中で各クラスが3種目の準備に取り組み、よりよい成果をあげようとお互いに協力し合って活動することができた。練習場所や時間を均等に割り振るなど学年として調和のとれる工夫も見られた。班活動もそれぞれが精一杯やり切った。各班、生徒会顧問の指導の下で成長の場を与えることができた。	○			熱中できる何かをそれぞれの生徒が持てるように学校の環境を整えるために、職員間の連携や各分掌での指導を丁寧に工夫していきたい。各自の目標達成が実現できるように生徒の主体性を尊重しつつ、適時適所の支援、アドバイスを継続する事が大切だと思われる。	
学校運営	教務	生徒が意欲的に学習、クラブ・生徒会活動に取り組むことができるようスムーズな学校運営を行う。	年間行事予定に定められた諸行事を、学年・教科・係・委員会が連携を密にして取り組めるように、立案・計画・運営ができたか。また感染症対策の緩和を考慮した適切な計画を作成できたか。	年間行事予定に定められた諸行事はほぼ計画通り実施できた。昨年度より反省職員会を年間予定に位置づけ、学校の課題について検討・議論する機会を設けた。遠隔授業による単位認定については、今年度も基本方針に基づいて対応しつつ、その教育的効果について様々な議論があったことを踏まえ、来年度以降の運用について引き続き検討を要する。		○		反省職員会の位置づけを今後も有効活用し、各部署での意見や要望が反映されるようにする。遠隔授業による単位認定については対象者の限定、学校間連携による運用など、取り組みが維持できる運用に変更を予定している。	
			情報機器と校内ネットワークの管理・運営を進めるとともに、生徒および教職員のICT活用を積極的に支援する。	情報機器および校内ネットワークの円滑な維持管理ができたか。授業・学校行事へのICT活用だけでなく、会議資料の電子化・電子採点など職員間でのICT活用を進めることができたか。また統合型校務支援システム(C4th)の円滑な運用ができたか。	職員会議および教務係会の資料の電子化は十分定着している。暑さや寒さの厳しい時期は教室でオンラインによる行事を行った。すべての学年でGoogle Formsによる欠席遅刻連絡を運用し、Formの様式も改善を施した。校務支援システムは十分定着し、出欠管理・成績管理・調査書および指導要録作成の体制は確立された。今後はシステム運用が可能な者を増やしていく必要がある。	○			校務支援システムへの情報入力について、漏れ等を防ぐ呼びかけは地道に継続するとともに、漏れのチェック機能がシステムに導入されるような働きかけを行いたい。
			広報活動に力を入れ、体験入学の充実を図る。	学校案内パンフレットならびに公式ホームページの工夫・充実をはかり、本校を志願する中学生が本校についてよりよく理解できるような情報提供ができたか。	当初の計画通り学校案内パンフレットは作成できた。体験入学は直前の暑さ対応等、各所の協力により、多くの中学生とその保護者に参加してもらえた。終日(午前・午後二部制)にわたる日程を変え、(コロナ前の)半日二部制の実施に戻したが、大きな混乱は生じなかった。		○		体験入学については、実施時期7月を継続し、土曜日実施が継続できるよう日程調整をはかる。来年度も半日二部制での実施を計画したい。
			保護者と教職員の連携を図り、学校の教育活動を支援する。	PTA諸活動が、保護者が学校への意見や要望を出しやすい機会となりえたか。 生徒の学習活動やクラブ活動などに関する教育条件整備を支援することができたか。	5月のPTA総会は引き続きオンライン実施となったが概ね好評であった。9月の各学年PTA教育懇談会は各学年で講演会が実施され、保護者と活発な意見交換がなされた。 PTA会計やクラブ振興会会計などの予算執行により、班活動の旅費の支援ができた。環境整備はPTAの保護者、生徒、教職員、総勢140名余りが参加して花壇の設置や美化作業ができた。		○		PTA総会や環境整備事業等を中心とした各種行事の開催や幹事会について、関係者と連絡を密に各種行事が計画・開催されるようすすめる。 各方面から意見や要望を聞き、予算のなかで、可能な限り、教育条件整備を進めていきたい。
「開かれた学校づくり」推進	「開かれた学校づくり」を研究・推進し、学校をより活性化させる。	授業公開・教育実習等の機会を捉え、魅力のある授業を行うための校内研究を充実させ、教員の資質向上を図ることができたか。	当初予定したすべての授業公開を無事実施でき、非常に多くの中学生やその保護者にご参加いただいた(5月470名・6月260名・10月170名)。昨年に引き続き、受付での名簿確認作業をなくし、待ち時間の緩和と職員の当番負担を軽減した。		○		申込でのGoogle Forms活用は好評のため継続する。来年度6月平日の授業公開は当日中学が登校日となることもあり、減らす方向で検討している。		
		学校自己評価表作成と中間評価及び総括、学校評議員会等の意見などを反映させ、よりよい学校づくりに資することができたか。	各種アンケートにはクラウドサービスを積極的に活用し、効率化を進めている。また各アンケート結果は、早期に職員会議に報告してフィードバックでききるよう努めている。			○		アンケート集約ではクラウドサービスの活用を継続する。実施の必要がない調査・アンケートは今後も精選をすすめる。	